

美術科授業案

日 時 平成30年6月6日(金)

授業者 更科結希

授業場 美術室

1 題材名 本物はどっち? [A表現(1)(3)]

2 題材の目標

自分の身近にある対象物を観察し、形態や色彩の特徴を捉えて、創造的に表すことができるようにさせる。また、仲間の作品のよさについて、造形的な視点や特徴の表し方に着目して鑑賞することができるようにする。

3 題材について

(1) 題材観

美術科において、感性や想像力などを豊かに働かせて、思考・判断し、表現したり鑑賞するなどの資質・能力を相互に関連させながら育成することや生活を美しく豊かにする造形や美術の働き、美術文化についての実感的な理解を深めることに更なる充実が求められている。今回は、表現や鑑賞を〔共通事項〕との関連を図り、形や色などの働きについて実感を伴いながら理解できるようにしたい。

学習指導要領における鑑賞のねらいとしては、自然や身近な環境の中に見られる様々な造形に視点をあて、そのよさや美しさなどを感じ取り、生活を美しく心豊かにする美術の働きについての理解を深めることである。また、表現においては対象や事象を深く見つけ感じ取ったことや考えたこと、感情などの心の世界を基に主題を生み出し、単純化や省略、強調、材料の組合せなどを考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練ることとしている。こうした理解を、生徒の感性や想像力に実感的に働きかけるためには、鑑賞と表現の相互の関連は不可欠であると考ええる。

本題材は、中学1年が宿泊研修で厚岸を訪れた際に採取してきた石(自宅周辺も含む)を対象物として扱う。一つ一つ異なる形の石を立体物として捉え、前時で学習した色彩の学習を生かしながら、本物に近づけるといった側面から、表したい特徴を明確にして表していくことを目的としている。

(2) 目指す児童・生徒像

図画工作・美術科が目指す生徒像は「表したい想いの実現に向け、試行や再考を繰り返し、創造活動の価値を見いだすことができる」姿である。本題材においては、対象や事象を捉える造形的な視点について粘土や絵の具を用いて表すことを通じて実感的な理解につなげたい。また、感性や想像力を働かせて造形的なよさや美しさにきづき、表したい特徴を主題として表現の工夫を行い、創造的な表現につなげていこうとする姿を目指している。

(3) 指導観

本題材は、生徒が選んだ石を対象物として観察していく中で、造形的な視点で対象物を捉え、素材や道具を工夫しながら表現していけるよう指導していく。

本題材における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

美術科における見方・考え方は、感性や想像力を働かせて、形や色彩などの造形的な視点で、対象やイメージを捉えるなどして、自己や他者との関わりや、生活、社会、文化などとの多様な関係の中で、心豊かに生きることと美術との関わりについて自分としての意味や価値をつくりだすことである。

本題材においては、立体物を全体或部分などの側面から、自然物と人工物の形態や色彩の違いに気付き、対象を捉えていく見方・考え方を高めていく。こうした見方・考え方は、生徒個人が対象物から観察し表現してだけでは気付かないことも、他者との対話の中で、他者の見方に触れることによって高められるだろうと考える。

4 評価規準

関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞
ア対象を見つめ、感じ取った形や色彩の特徴や美しさなどを表現することに関心を持ち、主体的に主題を生み出しながら、形や色彩を表すために材料や用具の特性を生かして工夫して表現しようとしている。	ア主題を基に、全体或部分との関係を考え、形や色彩にこだわりを持ち、創造的な構成を工夫しながら、表現する構想を練っている	ア表したいイメージを大切にしながら、形や色彩などの表し方を身に付け、表現意図に応じて素材の扱いや道具の扱いを工夫しながら創造的に表現している。	ア 造形的なよさや美しさ、対象のイメージ、主題と表現技能の選択や材料の生かし方などを感じ取り、自分の思いや考えを持ち味わっている。

5 題材の指導計画

時	学 習 内 容	評価
1	・石はどこからきたか、人との暮らしのかかわりについて想起する ・石を描画スケッチで捉えた後、粘土スケッチを行い、立体物として形をつくる上での視点を共有する	関ア
2	・粘土で大まかな凹凸を捉えたのち、細部を様々な道具を活用しながら表していく	発ア 創ア
3	・色彩の特徴を見つけ、絵の具の混色を工夫しながら表す。 ・他者作品から着色の仕方によって、見え方が異なることに気付き、自分の表現につなげていく	発ア 創ア
4	・全体の色の特徴と部分の色の特徴に分けて、道具の工夫をしながら表す。	創ア 鑑ア
5	・完成した作品を撮影する ・他者と作品の鑑賞をし、石のどのような特徴を表そうとしていたかについて造形的な視点をもとに、自分の感じたことを伝える。	鑑ア

6 本時について（2 / 5 時間目）

(1) 本時の目標

対象物の観察から、全体や部分の形の特徴を捉え、立体の6面から表すことを意識し、見る視点を変えながら道具を適切に扱い創造的に表すことができる。

(3) 前時の展開（○発問、△補助発問、□指示・説明）

学習活動（下位目標）	主な働きかけ	【評価方法】 個に応じた指導
<p>1 自分が表したい対象物の特徴について確認することができる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・欠けているところ ・丸みがあって、握りやすいところ ・色のマーブルなどところ </div>	<p>○みなさんの石で、最も表したいところはどんなところでしょうか。</p> <p>□本物はどっちかと思えるほど、その特徴には重点的に表せるよう道具を活用しながら表しましょう。</p>	<p>【発言・ワークシート】</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 最も表したい形の特徴には、どのような表し方が有効か？ </div>		
<p>2 石を立体としてとらえ、6面の方向から形を見ていくことができる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【表現に関わること】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形が似ていて、色も似ているから ・けれども、この写真だけでは言えない。 ・側面からの形がどうか分からないから </div>	<p>○次の表現された石は、どちらが本物に近いでしょうか？</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・1面だけで表された作品と6面から表された作品で比較をする。 </div> <p>△これだけでみなさんは本物に近いと言えますか。</p>	<p>他者との対話</p>
<p>3 6面の方向から観察し、粘土で表すことができる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【道具の工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指の動きや尖らせてみる ・カッターを使うと平らな表現ができる ・粘土ベラ意外では、ブラシや紙やすりも使えるのでは </div>	<p>□観察する石と見比べながら粘土で表していこう。</p> <p>○手では作れない箇所はどのような表し方の工夫が必要だろうか。</p>	<p>【発言・ワークシート】 作品との対話</p>
<p>4 次時への課題となることをワークシートに記入する。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>□立体を粘土で表すために工夫してきたことを振り返ってみよう</p> </div> <p>□次の時間は、着色をしていきます。どのように表していきたいか考えをまとめておきましょう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>▲これまで、記録してきた造形的な視点について振り返りさせながら、理由を記述できるよう指示していく</p> </div> <p>【ワークシート】</p>

6 本時について（4 / 5 時間目）

対象物の色の特徴を観察し、部分の色の違いを見付けながら、少しずつ色を変化させていくために、道具の工夫をしながら表すことができる。

（4）本時の展開（○発問、△補助発問、□指示・説明）

学習活動（下位目標）	主な働きかけ	【評価方法】 個に応じた指導
<p>1 前時の石の全体的な色について自分の表現を確認することができる。</p> <p>・黒いけれど、微妙に異なる色を表したいと考えていた ・少し色が変わっていったところを表そうとした</p>	<p>○前時では、どのような色の特徴を表そうとしてきましたか。</p>	<p>【発言・ワークシート】</p>
<p>自然の色を表すためには、どのような工夫が必要か？</p>		
<p>2 石によって異なる色や様子によってどのような着色の工夫が必要か考えWSに表すことができる。</p> <p>【生徒の予想される答え】 ・同じ色を一色で作ろうとしないで、水で薄めた色を重ねていく ・塗る道具として筆だけでなく、雑巾を使う ・ティッシュでこする ・点描の様にする</p>	<p>□仲間の石を観察して、表し方を変えた方がよいところを指摘してあげよう。</p> <p>□表したいことに併せて表現方法を変えてみよう。 □表したい特徴を観察しながら表現していこう。</p>	<p>他者との対話</p>
<p>3 対象を表すために、色や道具で表現方法や技法を試し、表現の工夫につなげ表すことができる。</p>	<p>□表したい特徴を観察しながら表現していこう。</p>	<p>【発言・ワークシート】 作品との対話</p>
<p>4 本時の振り返りと次時の見通しをもち、ワークシートに記入する。</p>	<p>○表したい表現に近づけるためにどのような工夫をしてきましたか。</p> <p>□次の時間は、完成した作品が最大限魅力的に見せられる写真を撮影します。次時の見通しをもちましょう。</p>	<p>▲これまで、記録してきた造形的な視点について振り返りさせながら、理由を記述できるように指示していく</p> <p>【ワークシート】</p>

6 本時について（5 / 5 時間目）

完成した作品と本物を引き立てる場所を選定し、表したい特徴が見える大きさや光量を考え撮影することができる。また、他者の作品の表現について、制作を経て実感した表現の工夫について述べることができる。

（4）本時の展開（○発問、△補助発問、□指示・説明）

学習活動（下位目標）	主な働きかけ	【評価方法】 個に応じた指導
<p>1 前時までの制作を振り返りどのような工夫をこらしてきたか確認することができる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・形の細々した凹凸を捉えるために、道具の工夫をしてきた。 ・色の表現では、点描を利用するなどして、細かな色の移り変わりを表した。 </div>	<p>○石のどんな特徴を表現しようとしてきたか振り返ってみよう。</p>	<p>【発言・ワークシート】</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 完成した作品をあらゆる角度から味わおう </div>		
<p>2 完成した作品を班で鑑賞しあい、互いの作品で工夫されていることに気付くことができる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【生徒の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が思った以上に、細かな色の違いに気付いてくれた ○形の捉え方で伝えたい特徴のところは相手に理解してもらえた ○上手く伝わらなかった。もっと大胆に色をつけるべきだった </div>	<p>□仲間の作品を本物と見比べてみて、工夫された表現を見つけてみよう。</p> <p>○仲間はどんな発見をしてくれただろうか。自分の振り返りと比べて、違いはありましたか。</p>	<p>他者との対話</p> <p>【発言・ワークシート】</p>
<p>3 完成した作品と石を最適な場所で撮影してみよう。</p> <p>4 題材を通した問いに対する考えをWSにまとめることができる。</p>	<p>□自分の作品の魅力が伝わる角度から作品を撮影してきましょう。</p> <p>□今日の時間の振り返りも含めて「題材に対する問い」について考えWSに記入しましょう。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>▲これまで、記録してきた造形的な視点について振り返りさせながら、理由を記述できるよう指示していく</p> </div> <p>【ワークシート】</p>